

静岡理工科大卒業生  
袋井の図書館に55冊  
市に寄贈

静岡理工科大(袋井市豊沢)の第30期卒業生が、小中高生らにお薦めの図書55冊(17万4千円相当)を卒業記念品として市立図書館に寄贈した。

寄贈した本は「親子でかんたんスクラッチプログラミングの図鑑」(技術評論社)、「空飛ぶクルマ(電動航空機)がもたらすMa a



大場規之市長(左)に図書の目録を手渡す脇坂泰清さん(中)と佐野大河さん(右)袋井市役所で

S革命)」「(日経BP)など理工系の図鑑や参考書が中心。卒業生や教職員から購入資金を募り、卒業生代表が図書を選んだ。

12日に市役所で卒業生代表の脇坂泰清さん(22)「情報学部コンピュータシステム学科」と佐野大河さん(22)「情報学部情報デザイン学科」が大場規之市長に目録を手渡した。脇坂さんは「本で知識を深めながら、楽しく理科や数学の分野を学んでほしい」と話した。

同大の学生は卒業記念事業として2018年度までは植樹を行ってきたが、19年度からは市立図書館へ本を寄贈している。

市が24年度から導入する「まちじゅう図書館」では、学校図書館と市立図書館を一元管理し、各小中学校で市立図書館の本を借りることができる。大場市長は「これまでに贈られた300冊以上の図書は子ども

たちにとって大きな財産。新年度からは今まで以上に活用されると思う」とお礼を述べた。(牧田幸夫)